



高尾を訪れる人の笑顔を想いながらの古道整備



穂見神社周辺の草刈りも行います



女性の方々も活躍しています



この日は穂見神社でコンサートが行われました



高尾プロジェクトのメンバー阪阪さん



高尾地区に住む穂坂さん



穂見神社の夜祭には毎年多くの人が訪れる



夜祭では、古道をちようちんで照らしながら穂見神社を目指します

高尾あいのプロジェクトの「あい」は、  
出会いのあい・助け合いのあい・愛のあい・etc...  
多くのあいをもっています



高尾の夜祭

ちようちん行列ツアー2016

11月22日(火)開催

- ちよっぴり行列体験！夜祭バスツアー  
ちようちん行列プチ体験。高尾地区入口から穂見神社まで歩いて向かおう！  
時間：17:00～(第一便) 18:30～(第二便)  
参加費：2,000円(ちようちん・バス往復・おはらい他含む)
- 今年も実施します！古道ちようちん行列ツアー  
高尾地区に続く古道(高尾道・片道約2時間半・約2.5キロ)を解説ガイドと一緒に、楽しく安全に登りましょう！  
時間：18:00～  
参加費：2,000円(ちようちん・おはらい他含む)

その他詳細等はお問合せください。  
090-1464-6867(高尾あいプロジェクト)  
アドレス takaonight@gmail.com  
活動はフェイスブックでチェックできます。

「忘れて去られる場所には何も生まれません。人が動きかけをつくりたいならば、まずは自分が知り尽くさなければ。だから、高尾地区では資源の掘り起こしをします。知識として知れば、今度は自分で気づくことができる。自分たちの地域の魅力を自分たちで掘り起こせば、人に伝えることがより楽しくなる。この集落に限らず、自分の地元のことをキラキラした目で語ることで、一人ひとりが「半径30mの語り部」になってい

ら始まった『資本金貸し』や、夜通し行われた『太神楽』は全国的にも珍しいもの。昔は車が大渋滞していました。しかし5、6年前頃からそれ以前ほどの賑わいは見られなくなりました。おまけに神楽の継承も危ぶまれました。これではお祭りが消えてしまう。：地元の関係者で組織した「高尾山穂見神社崇敬会」や「崇敬会神楽部」を中心に、祭りを失われたものにならないようにと知恵を出し合う。「ちようちん」をもって古道を歩く「ちようちんツアー」も、神楽も、資本金貸しも、地域を思う人たちが本気でなんとかしたいと思えば、PR続けたおかげで形を留めることができたのだらう。

知って、気付いて、伝えて

「半径30mの語り部」に

けたら、地域はどんどん魅力であふれていくと思います」

古道整備、イベント、祭り、ワークショップ。高尾あいプロジェクトのメンバーが行っているのは、潜在的にそこにある魅力を顕在化すること。そうすることで、地元の人にも、高尾地区を知らない人にも「何かある。高尾を知ってもらおうことができる。それが「人が動きかけ」になつていくのだらう。

「活動について振り返ると、5年間でよくそこまでという期待以上の感じと、まだまだ2割程度という道のりの長さの両方を感じます。ざっとゴールはない。強いていえば、わたしたちが無難になることが理想なのですかね(阪阪さん)

高尾あいプロジェクトのメンバーは年齢も立場もバックグラウンドも様々。ただ、高尾に惹かれ、高尾を舞台に繋がりたい、本気で高尾のことを考えて活動している。山の中腹にある神々が宿る集落・高尾。ここには、人を動かし、人をつなげる「何か」があるのだらう。

今年も11月22日に「夜祭」が開催され「ちようちん行列ツアー」が行われる。闇夜に浮かぶ美しい社、賑やかなお囃子と神楽の舞はとても幻想的。だれでも参加できるので、ぜひ一度足を運んでみてほしい。

ここだよお〜。

巻頭特集

標高800メートルに佇む集落

高尾地区の魅力掘り起こす

「高尾あいプロジェクト」の活動



feature



南アルプス市、高尾地区。標高800mにぽつんとある「高尾集落」は、山の暮らしと独自の文化が時を越えて継承されてきた。しかし戦後、暮らしが豊かになりはじめた昭和30年代を境に山の暮らしが衰退すると人々は里に下りてゆき、世帯数3軒にまで減ってしまった。そこで立ち上がった「高尾あいプロジェクト」。「人が動きかけをつくり、高尾集落に賑わいを」と動き出し、着実に成果を上げ続けている。

神々が宿る世界  
穂見神社と高尾集落

いま、南アルプス市高尾地区で起こっていることは何なのか。地域創生とは何を指して、進むべきものなのか。過疎化が加速し、放っておいては集落が消えてしまうギリギリのところでは、発足した「高尾あいプロジェクト」は、世帯数3軒まで減ってしまった高尾地区に賑わいを取り戻すことをミッションに平成24年動き出した。始まりは高尾の2世帯と高尾にはゆかりのない有志3名から。そこから徐々にメンバーが加わり、高尾集落のサポーターとして魅力発信&活性化に関わる活動を行っている。

高尾集落はふもとの里から車で約10分。標高800mの山奥に佇む。便利な暮らしができる場所とは言いがたいが、代わりに文化資源が豊富。茅葺屋根の家など昔ながらの山村風景が残る美しい集落でもある。

この集落には「穂見神社」という商いの神様が宿ると名高い神社がある。穂見神社は集落よりも少し上であり、本殿は厳かな雰囲気。商売繁盛祈願のために、県内外から人が訪れているという。

「高尾の夜祭」で、  
集落に人を呼び込む

高尾あいプロジェクトは、参加メンバーの本気度が高い。コアメンバーを決めなければいけないほどに仲間が増えたというが、メンバーは古道整備などのワークショップにふらりと参加し、高尾に魅了された人ばかり。立場も年齢も性別も違う。しかし、一人ひとりが真剣かつ能動的に高尾を見つめ、課題解決に取り組んでいる。

活動は、穂見神社へと続く古道を整備するところから。これは「人を迎え入れる準備」になるだけでなく、高尾集落に実際に触れて「魅力を発掘すること」にもなっていた。

里から約140分かけて古道を歩き、神社を詣でるツアーはなかなかの盛況っぷり。特に11月の「高尾の夜祭」時にはちようちんを手に古道を歩く人が列をなし、穂見神社を目指す。さながら富士山頂を目指す登山者の列のようだという。

「穂見神社の秋季例大祭・高尾の夜祭」は、奇祭です。商売繁盛の元手となる「資本金」を神社から借りて翌年返す風習が